

～ 増え続ける医療費、どうなる今後の国民健康保険 ～

国民健康保険は、医療保険制度における国民皆保険体制の中核的存在として、住民の医療の確保と健康の保持増進に重要な役割を果たしています。

しかし、急速な少子・高齢化の進展や医療技術の高度化による医療費の増大と、景気の悪化に伴う所得の低下等もあって、国民健康保険の財政は急速に悪化し、事業運営は大変厳しい状況にあります。

国民健康保険財政の危機

八百津町国民健康保険特別会計決算では、歳入額から歳出額を差し引いた額は、各年度黒字になっていますが、歳入額には前年度からの繰越金が含まれていますので、その額を差し引いた単年度の収支では各年度赤字となっており、平成16年度が1,380万円の赤字でしたが、平成20年度では約7,000万円の赤字と、年々赤字も増加しています。

しかも、平成20年度では、前年度からの繰越金を含めても赤字であったことから、初めて国民健康保険基金（ ）を約5,750万円取り崩して、やっと赤字を埋めることができたのが現状でした。最高2億4,000万円ほどあった基金も平成20年度末で残高約1億8,000万余りとなり、今年度も、引き続き基金を取り崩さなければならない状況となっております。

このままの状況が続くと、あと3年ほどで基金も底をつき、いよいよ国保財政の危機的状況が訪れると予測されることから、今後国保税率の引き上げをお願いする予定ですので、皆様のご理解とご協力をお願いします。

国民健康保険基金・・・国民健康保険事業の安定運営を維持していくための積立金

医療費の動向

八百津町の医療費の状況は、平成16年度の一人当たりの医療費（老人・退職を除く）が183,601円であったのに対し、平成20年度は236,250円と約30%伸びており、被保険者数の伸び（約21%）と比べても大幅に増えている状況となっております。

医療費のお知らせ

病院等で診察を受けると、みなさんは窓口で医療費の一部負担金を支払いますが、残りは国民健康保険が負担しています。この医療費の総額がいくらなのかをお知らせするのが、「医療費のお知らせ」です。町では、毎月ハガキでお知らせしています。

これは、医療費の総額を知らせることで、一部負担金のほかに医療費がどれだけかかっているのか知ってもらい、重複受診など医療費がかさむ受診をしないよう、自覚をうながすことを目的としています。

平成22年度特定健診等のお知らせ

町国保では、40歳～74歳までの加入者を対象に、毎年健康診断（基本健診）を行っています。本年も6月頃に受診票を送ります。また、がん検診や眼底・眼圧検査、心電図検査も一緒に受けることができます。健診の日程は、先にお配りしました『健康・生活カレンダー』または受診票に同封します日程表を参照ください。

その後、受診の結果をみて、生活習慣病予防のための保健指導も行いますので、みなさんの健康維持と医療費の抑制のためにも、是非、積極的な「特定健康診査」の受診をお願いします。

